

# 山門改修で落慶法要

## 葬儀・墓地販売など順調

### 曹洞宗見性院

埼玉県熊谷市の曹洞宗見性院(橋本英樹住職)は7月20日、山門改修落慶法要と分院専

念寺、分院観音堂の十一面観世音菩薩像開眼供養を営んだ。県選出の野中厚衆院議員や、橋本住職が代表を務める超宗派の勉強会「善友会」の僧侶らが参列。

般若心経を唱える簡素な形式で執り行った。

3月の本堂改修に続く施設整備や仏像の建立に伴う法要で、昨年から続いた大規模改修・新築工事が一段落した。

2012(平成24)年に檀家制度を廃止し「仏教界の風雲児」の異名を取る橋本住職は、地域住民に開かれた寺院を目指した。当初は反対する関係者もいたが、コロナ禍で葬式の簡略化や墓離れが進む中、葬儀や墓地販売などの事業は順調に推移し増収を維持しているという。

中古の墓石と墓誌を修正加工した「再生墓地」の販売や、曹洞宗寺院として初めて霊柩車を保有し遺体運搬業務を行うなど、新しい取り組みにも次々と挑戦している。

橋本住職は「善友会の僧侶仲間や異業種の人と積極的に交流した成果。社会の実態を反映した本音を語り合っていることも奏功している」と話している。



見性院で営まれた山門改修落慶法要